



りんご生産情報第10号
(8月29日～9月13日)



樹上選果マン

令和6年8月28日発表
青森県「農林水産力」強化本部

つがるの収穫は適期に！
良品生産に向け、樹上選果の徹底を！！
台風対策を万全に!!!

I 概要

8月21日現在の果実肥大は、各品種とも平年を上回っている。

つがるの熟度は平年より3日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で9月7日頃からと見込まれる。収穫は地色や果肉の熟度を見て2～3回くらいに分けて行う。着色を待ちすぎて収穫が遅れると、軟質化など品質低下につながるので注意する。

着色手入れや除袋の際に、今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病虫害被害果、さび果等の摘み取りを徹底する。

台風や強風に備え、防風網の点検、補強などの風害対策をしっかりと行う。

例年落果がみられないトキやジョナゴールドなど中生種で収穫前落果がみられたらヒオモン水溶剤を散布する。

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。

報道機関用提供資料	
担当課	りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 小笠原 宜弘
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報道監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

各品種とも平年を上回っている。

○果実肥大

(8月21日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	8.6	-	7.5
	平 年	8.1	-	7.2
	前 年	8.5	-	7.5
	平年比	106	-	104
青森市浪岡北中野 (東青地域県民局)	本 年	8.7	-	8.0
	平 年	8.1	-	7.0
	前 年	8.4	-	7.2
	平年比	107	-	114
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	9.3	8.0	7.9
	平 年	8.4	7.7	7.2
	前 年	9.0	7.8	7.8
	平年比	111	104	110
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	8.6	-	8.3
	平 年	8.2	-	7.2
	前 年	8.6	-	8.4
	平年比	105	-	115
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	9.0	-	7.9
	平 年	8.2	-	7.0
	前 年	9.0	-	7.8
	平年比	110	-	113

注) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月26日現在、黒石では平年と比較して、硬度はやや高く、糖度及びヨード反応はやや低く、酸度及び着色指数は低い。総合的に見て、熟度は平年よりやや進んでいる。

○つがる(無袋)の熟度の進み

(調査月日：8月26日)

地 域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (ポイント)	糖度 (brix%)	酸度 (g/100ml)	ヨード反 応指数
黒 石 (りんご研究所)	本年	274	0.4	15.6	11.2	0.250	4.2
	平年	250	0.8	15.3	11.4	0.292	4.4
	前年	267	0.3	15.0	12.9	0.250	3.7

注1 調査系統：普通系

2 平年：2001年～2020年の20か年平均

3 落果防止剤(ストップポール液剤)散布日：8月16日

4 着色指数：0～5(大きい数値ほど着色良好)

5 ヨード反応指数：ヨードテンブロン反応指数0～5(小さい数値ほどでんぷんが少ない)

(3) 作業等の進み（8月26日現在）

見直し摘果、早生種の着色管理、支柱入れや草刈りが行われている。

2 作業の重点

(1) つがるの収穫

熟度は平年より3日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で9月7日頃から見込まれる。熟期が揃わないので、収穫は地色や果肉の熟度を見て2～3回くらいに分けて行う。着色を待ちすぎて収穫が遅れると、軟質化など品質低下につながるの、適期に収穫する。

山選果に当たっては、日焼け果、さび果などは、出荷先の基準により選別・出荷する。山選果で取り除いた果実は加工用に仕向ける。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油上がりなど品質の劣化が早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

なお、今後台風第10号が接近する可能性が高いので、気象情報や県が発行する臨時農業生産情報に十分注意するとともに、必要に応じて対策を講じる。

つがるの収穫時の標準指標

硬度	糖度	ヨード反応	食味
13～16ポンド	12%以上	3.5以下	3.5以上

注) 食味：指数1（未熟）～5（非常に良好）

(2) 樹上選果

着果量が多いと、翌年産の花芽形成などに悪影響を及ぼす。今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病虫害被害果、さび果等の摘み取りを徹底する。

(3) 中生種の収穫前落果防止対策

例年落果がみられないトキやジョナゴールドなど中生種で収穫前落果がみられたら、果肉の軟化しにくいヒオモン水溶剤を散布する。

(4) 中・晩生種の着色手入れ

着色手入れは、早生ふじで9月10日頃からは、シナノスイート及びジョナゴールド（無袋）で9月20日頃から行う。

早くからの強い葉摘みは品質低下を招くので行わない。ある程度着色した頃から始め、収穫までに2回程度に分けて行う。

摘葉剤ジョンカラープロを使用する場合は、ふじのみとし、使用時期は「収穫40～50日前」とする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

(5) 日焼け対策

日焼け果の発生が懸念される場合は、遮光資材を樹上に被覆する。遮光資材は日焼けの心配がなくなり次第取り外す。

(6) ジョナゴールドの除袋

除袋は9月15日頃～25日頃にかけて行う。

着色むらをなくし、リンゴコカクモンハマキの食害を防ぐため、外袋をはぐ時は、果実に密着している葉も摘み取る。

二重袋の内袋は、日焼けを発生させないため、曇天か晴天の日中（10時～14時）にはぎ取る。

(7) 「9月中旬」の特別散布（中・晩生種対象）

すす斑病・すす点病の発生が例年多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、黒石、弘前、三戸で9月15日頃に特別散布を行う。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

「9月中旬」の特別散布（中・晩生種対象）

地域	散布時期	薬剤名	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	9月15日頃	オーソサイド水和剤80 又はストライド顆粒水和剤	800倍 1,500倍

(8) 褐斑病対策

一部園地で発生が見られている。自園地の状況を確認し、被害葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。



図1 褐斑病の被害葉

図2 病斑上に虫糞状の黒い粒（分生子堆）を生じる

提供：（地独）青森県産業技術センターりんご研究所（図1、図2）

(9) 炭疽病対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

(10) 腐らん病対策

本年も発生が目立っている。

摘果後のつるや、収穫時につる折れ、つる抜けとして残ったつるから病原菌が侵入するので、つるが果台に残らないように丁寧に収穫する。つるが残った場合は必ず果台から取り除く。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。胴腐らんは、再発病斑を含め、見つけ次第、次のいずれかの処置を行う。

なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。



(<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>)

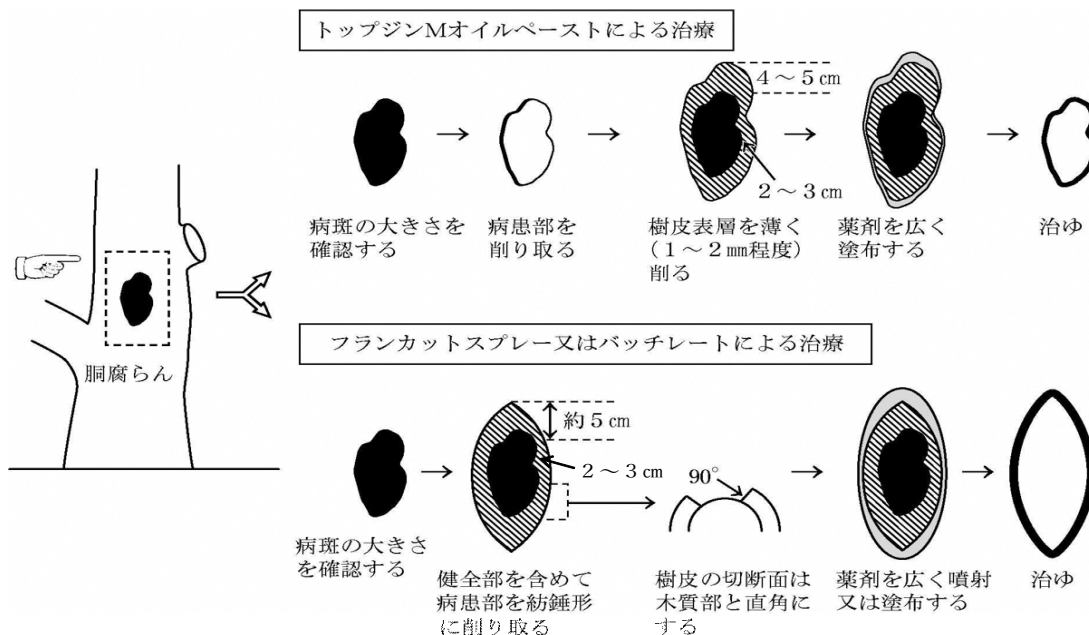
QRコード：左からトップジンMオイルペースト、バッチレート、泥巻き方

ア トップジンMオイルペースト、フランカットスプレー又はバッチレートを使う場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。

イ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を病斑部よりも5～6 cm 広めに、3～5 cmの厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのままにしておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

なお、火山灰土壌を使用する場合は、容積比で土が9に対してベントナイト（土壌改良資材の一種）1を加えてこねると粘着性が増し、泥巻き作業の効率が良くなる。泥を作るには、土とベントナイトをよく混ぜてから水を入れて練るので、加える量を誤らないようにする。

ウ 胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。



削り取り法による胴腐らん治療の作業手順

(11) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシリンA L水和剤1,000倍も使用する。
ポリオキシシリンA L水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

(12) 黒星病対策

一部園地で発生が見られている。自園地の状況を確認し、被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(13) ハダニ類対策

発生状況に応じて適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは合わせて年1回の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）と混用しない。銅剤を散布した後は使用しない。また、散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔をあける。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	×
オマイト水和剤	1回	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	2回以内	○	×
スターマイトフロアブル	1回	○	×
ダニコングフロアブル	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	1回	○	○

注) ○：効果が高い、×：効果が低い

(14) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。

被害果をそのまま園地に放置すると次世代の発生源となるので、必ず処分する。
ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、9月以降も防除剤を使用する。

(15) リンゴコカクモンハマキ対策

幼虫の発生の多い園地では、9月上旬または中旬にスピノシン剤を使用する。
発生が多い場合は、果実に接触している葉を早めに摘み取り、果実被害の軽減に努める。

リンゴコカクモンハマキに対する殺虫剤の適用表（9月以降）

薬剤名		倍数	使用時期	年間使用回数
スピノシン剤	ディアナWDG	10,000倍	前日	2回
	デリゲートWDG	10,000倍		

(16) クワコナカイガラムシ対策

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋して被害の軽減を図る。

(17) 風害対策

台風の接近や強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(18) マメコバチの巣箱の回収

本年はマメコバチの少ない園地が多くみられているので、増殖を図るため適正な飼養管理に努める。

ア 巣箱の管理

マメコバチの巣箱を回収していない園地では、すみやかに巣箱を回収し、直射日光が当たる所や高温になる所を避け、風通しのよい日陰に保管する。地面からできるだけ離して、巣筒の内部が過湿にならないように注意する。

冬季に温度が上がる場所（暖房する部屋や日光の入る閉め切った部屋など）には絶対に入れない。

イ 巣筒の更新

巣筒を何年も利用し、筒内に古い繭が溜まるようになるとコナダニなどの天敵による被害が多くなるので、巣筒を更新する。

(19) 土壌乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(20) 縮果病（ホウ素欠乏）対策

欠乏症状が見られたら、直ちにソリボー（葉面散布用ホウ酸塩肥料）を1,000倍（水100ℓ当たり100g）の濃度で7～10日おきに2回散布する。

(21) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症状が見られたら、葉面散布用の硫酸マグネシウムを1～2回散布する。散布間隔は7～10日あける。

苦土欠乏は土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

硫酸マグネシウムの使用方法

資材名	マグネシウム含有量	水1000当たり使用量（倍数）
グリーントップ	16%	2,000 g（50倍）
グリーントップ70	23%	1,400 g（71倍）

(22) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットが発生しやすいのでカルシウム剤の果面散布を丁寧に行う。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水1000当たり 使用量（倍数）	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g（300倍）	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g（400倍）	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml（500倍）	5

(23) 鳥害防止対策

野鳥による被害を防ぐため、以下の対策を行う。

ア ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。防鳥網の網目は35mm以下とする。

イ 釣り糸を張り巡らす場合は、鳥の種類に合わせた間隔（カラスの場合1m以下）で張るようにするが、ヒヨドリは体が小さく、さらに飛行能力が高いため効果は低い。

ウ ディストレスコールを使用した音声機器や爆音機、かかしなどの防鳥器具は慣れが生じやすいので、ひとつの器具を長期間使用せず、様々な器具を組み合わせながら短期間で変えるようにする。

3 一般作業

- (1) 草刈り (2) 早生種の収穫 (3) 中生種の着色手入れ

4 今後の作業 (9月17日～10月4日)

- (1) 中生種の収穫 (2) 中・晩生種の着色手入れ (3) 樹上選果
(4) 病虫害対策 (5) 風害対策 (6) 鳥害対策 (7) 草刈り
(8) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り

青森県農薬危害防止運動展開中 (6月～8月) !

《 りんご研究所参観デーのお知らせ 》

黒石会場 (りんご研究所) : 9月5日 (木) 9:00～15:00

五戸会場 (りんご研究所県南果樹部) : 9月13日 (金) 9:00～15:00

※研究成果について講演会やポスターによる展示などがあります。

※詳しくは、りんご研究所「イベント情報」

黒石会場 (<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2024070400025/>)

五戸会場 (<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2024070500022/>)



《 加工りんごマッチング商談会のお知らせ 》

生産者と加工業者が個別に情報交換・商談できるマッチング商談会を開催します。
加工りんごを条件の合うところに売りたい生産者の方や関係団体の方、必要な原料を安定的に確保したいりんご加工業者の方など、多数の参加をお待ちしております。

日時・場所 : 9月5日 (木) 9:00～15:00

上記のりんご研究所参観デー会場内にて開催

※ 詳しくはこちら



《 「あおり9」の生果実流通 》

現在、「あおり9」は「彩香」の商標名で販売されていますが、令和7年10月27日で商標の使用契約が満了となり、「彩香」を使用できなくなります。

令和7年10月27日以降は、「あおり9」で販売してください。

《 熱中症予防運動展開中! (6月～8月) 》

熱中症による緊急搬送者が近年増加傾向にあります。こまめな休憩をとり、水分・塩分補給を行い、熱中症を予防しましょう。

詳しくは、こちらをご覧ください。

・熱中症予防運動 (<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8811>)



《 ツキノワグマ出没警報発令中！ 》

ツキノワグマ出没警報発令中です。農作業は、1人での作業を避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。

《 環境にやさしい農業に取り組んで、みどり認定を受けましょう 》

みどりの食料システム法に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の使用低減などに取り組む農業者の認定制度【みどり認定】が始まっています。認定を受けると、設備投資の税制優遇や国庫補助事業の採択優遇などのメリットがあります。

申請・お問い合わせは、最寄りの地域県民局地域農林水産部にご相談ください。

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/midori_kihontekinakeikaku.html

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 りんご属及びなし属植物の中国産花粉を使用しないで！ 》

中国において、火傷病の発生が確認されたため、中国産なし、りんごの花粉等の輸入が停止されました。

既に輸入された中国産花粉を介して火傷病がまん延することがないように、生産年にかかわらず、中国産花粉や来歴不明の花粉を入手・使用することがないようにお願いします。

《 青森県総合防除計画 》

総合防除とは、有害動植物の発生及び増加の抑制並びにこれが発生した場合における駆除及びまん延の防止を適時経済的に講ずることです。

青森県総合防除計画では、農業者が遵守すべき事項（「遵守事項」）の対象として、りんご「モモシクイガ」を設定しているため、適切な防除に努めましょう。

※県は、モモシクイガの防除が適正に行われるように、指導及び助言、勧告、命令を行うことができ、命令に従わない農業者は30万円以下の過料に処されます。

○りんご「モモシクイガ」の遵守事項（一部要約）

(1) 予防に関する措置

被害果は必ず処分するとともに、交信攪乱剤の設置や袋かけを行う

(2) 判断、防除に関する措置

被害果は見つけ次第摘み取り処分するほか、薬剤散布による定期防除を行う

詳しくはこちらをご覧ください。

・青森県総合防除計画 (<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8140>)



《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

次回の発行は令和6年9月13日（金）の予定です。